

留学を通しての気づき 遠藤結奈 カナダ(ノバスコシア州)

私は学校のマルチカルチャーフェアにて埼玉県のPRを行いました。ポスターを作成し、Q&Aセッションを開催しました。埼玉についてPRしたトピックは主に三つあります。

一つ目は浦和レッズです。留学先の学校にはサッカークラブがあり、生徒に人気であるため、紹介をしました。Jリーグのクラブチームであり、埼玉スタジアムにて試合観戦ができるということを伝えました。また、浦和レッズのグッズのユニフォームを持っていき、イメージカラーの「赤」についての説明をしました。

二つ目はムーミンバレーパークです。校内でムーミンのキャラクターデザインの小物入れを持っている生徒を度々見かけたことがあったため、このスポットをPRしました。ムーミンバレーパークは可愛いものが好きな人にぴったりで、おとぎ話の世界に飛び込んだような体験ができるということをお話しました。また、近くにはファンモックという子どもも大人も楽しめる施設があり、森の中に張り巡らされたネットがトランポリンのような仕組みになっていることを説明しました。

三つ目は越谷市のイオンレイクタウンについてです。ここは店舗数が国内で一番多いショッピングモールです。私の留学先にショッピングモールはなかったため、現地の生徒が魅力に感じると考え、PRをしました。Mori、Kaze、アウトレットの三つのエリアに分かれており、服屋や雑貨店以外にもゲームセンターや映画館までモール内にあること、そして友達と遊びに行ったり、家族と買い物をしやすい場所であることを説明しました。

さらに、SNS上では東京や京都などの有名な観光地以外にはあまり触れられないため、埼玉県を知る良い機会になったと様々な生徒に言われました。さらに、埼玉のサッカーの人気度やJリーグのシーズンの時期についても聞かれ、日本を訪れた際には試合観戦をしてみたいと考えている生徒が多かった印象でした。

現地は想像以上に田舎であり、公共交通機関もなく、基本車で送迎をしてもらわないといけない毎日でした。土地がとにかく広く、日本ではありえない大きさの庭を持っている家も珍しくはありませんでした、しかし、そのような環境であるからこそ、埼玉では見るできないような満天の星を見ることができました。

また、学校の雰囲気がとてもゆったりとしており、多くの生徒が自分の学びたいことを学べる環境が整備されていると感じました。日本の高校に比べると、生徒の多くが頻繁に授業中に発言していて、自分の意見が周りからどう評価されるかを気にしていない姿勢が印象的でした。その光景に感化され、自分自身も積極的に授業で挙手をするを意識するようになりました。

留学先では、日本の歴史の授業では習ったことのない、カナダの暗い過去についても勉強する機会がありました。カナダは元々イギリスの植民地であり、1874年にミクマク族を含めた先住民族の同化を行うため、寄宿学校が建設されました。親元から強制的に引き離された子どもたちは英語やフランス語での教育を受けさせられ、虐待をされたり、食糧や医薬品が不十分な環境下で過酷な集団生活を行わされました。驚くべきことに、1996年までこのような学校が運営され続けられていました。学校では“Walk for Wenjack”というイベントがあり、全校生徒で学校付近を長時間歩きました。これは寄宿学校に強制的に収容されていた12歳の Chanie Wenjack という男の子が脱走し、600キロ先の家まで歩いて帰っている途中に亡くなってしまったという実話が背景にあります。この悲惨な出来事の風化を防ぐために、この取り組みが現在行われているのです。

私の通った学校にはトルコ、ブラジル、ベトナム、中国などと様々な国から留学生が来ていました。特に一緒に仲良くなったのは韓国、イタリア、インド出身の留学生とフィリピン出身のアンバサダーでした。学校のアンバサダーたちは校内を案内してくれたり、学校のイベント情報を留学生に伝えてくれました。とても多様なコミュニティの中で留学生活を送ることができたことが私にとっての一番の思

い出です。また、様々な文化的背景を持つ生徒がこの高校に通っていたため、毎週水曜日の朝はカナダ以外の国歌が朝のアナウンスで流れていました。

カナダの学校の授業形式は日本のものと全く違うものでした。一日に授業は4コマあり、各授業75分でした。日本での通常授業は50分だったため、最初慣れていなかったうちは授業がとても長く感じました。しかし、日本の授業と違って先生から授業内容を教わってから演習を行う時間が十分あるため、一度の授業での内容の理解度がとても深まりました。

ハロウィンやクリスマスの時期にはスピリットウィークが開催されており、非常に新鮮な体験でした。スピリットウィークとは生徒会による取り組みであり、お昼休みに学年対抗ゲームやクイズなどのアクティビティがあったり、友達とペアルックやフォーマルウェアを着用する日などが設けられていたりしていました。季節のイベントに合わせて学校全体が賑やかな雰囲気になるのが、新鮮で楽しかったです。

また、初心者でしたがチェスクラブに入り、少しずつルールを学びながら他の生徒とチェスをしました。日本だとあまり馴染みがないため、とても興味深かったです。将棋と似ているため、想像していたよりも習得は難しくありませんでした。日本ではチェスをする機会が少ないため、とても素敵な経験になりました。

冬の間、現地でアイスホッケーの試合を観戦する機会があり、カナダらしい体験ができました。アイスホッケーの試合は観戦したことがなかったため、特殊なルールやサッカーとの応援の仕方の違いに衝撃を受けました。最も驚いたことは「ファイティング」と呼ばれる殴り合いがプレーの一つとして認められていることです。初めて目の当たりにした時は、レフリーが止めに行っていないことに驚きました。試合で許容されている行為だということは、後から友達に教えてもらいました。観客席は常に活気にあふれていて、とても盛り上がりました。

一学期目の授業選択は英語、数学、美術、ダンスの4つを選びました。ダンスの授業では、学期末のダンスリサイタルに参加しました。ダンスリサイタルの振り付けは生徒だけで制作し、その過程にてチームワークの大切さを学ぶことができました。また、学校で一般公開のクリスマスマーケットが開催された際に、初めて自作の絵を販売するチャンス을いただきました。今まで趣味として描いてきた絵を多くの人に気に入ってもらうことができ、自信につながりました。私は将来アートカフェを開きたいという夢を持っているため、それに向かって一歩進むことができた瞬間でした。

そのほか、英語の授業ではディベートを行ったり、自分で定期試験を作成したりと、アウトプット式の取り組みが多かったことが印象に残りました。二学期では社会学や心理学の授業を取りました。日本の高校のカリキュラムには組み込まれていない教科ですが、とても興味深い分野であることに気がつかされました。社会学の授業を通して、社会の仕組みや今まで不思議に思っていたことの真理を追求することができました。

私は留学を通して、星の数ほど考え方や価値観があるということを実感しました。当たり前だと思っていたことが簡単にひっくり返され、時には辛かったこともありましたが、それと同時にこの世界の広さに気がつくことができました。高校生の間にこのような経験を得られたことは一生の財産だと思っています。この留学をサポートしてくれた親をはじめとして、学校の先生方や「埼玉発世界行き」奨学金プログラムの関係者の方々に非常に感謝しております。これからも留学経験を活かして学業に励み、埼玉に貢献していきたいです。

